

【アメリカ】国防長官へのエスパー氏の指名承認公聴会

海外立法情報課 西住 祐亮

* 2019年7月16日、国防長官に指名されたエスパー氏の指名承認公聴会が、上院軍事委員会で開催され、2019年7月23日には、上院本会議で指名が承認された。

1 概要

2019年7月16日、連邦議会上院軍事委員会は、トランプ（Donald Trump）大統領によって次期国防長官に指名されたマーク・エスパー（Mark Esper）氏の指名承認公聴会を開催した¹。その後、2019年7月23日には、上院本会議で指名が承認された（賛成90、反対8、不投票2）²。この承認によって、ジェームス・マティス（James Mattis）氏の退任（2019年1月）以後続いていた同ポストの空席状況に、終止符が打たれることになった³。エスパー氏は、2019年8月6日に、国防長官に就任してから初となる日本訪問も果たした。

2 準備書面

エスパー氏は、国防次官補代理（2002年から2004年まで）や陸軍長官（2017年から2019年まで）などを務めた自身の経歴を紹介した上で、「国家防衛戦略（NDS）」⁴（2018年1月公表）への支持を表明した。加えて、自身の指名が承認された場合にに取り組む重点目標についても示した。

(1) 「国家防衛戦略」への支持

「国家防衛戦略」については、現在の米国が置かれている戦略環境を的確に評価していると指摘し、特に、中国及びロシアとの「大国間競争」によってもたらされる脅威が拡大し、高強度紛争（high intensity conflict）への備えが再び重要になるとの見方を確認した。具体的には、人工知能（AI）、軍事ロボット、指向性エネルギー兵器⁵、極超音速兵器などの分野で近代化・開発を進める必要性を指摘した。

加えて、イランや北朝鮮のような地域的な脅威に対応する重要性と、「イスラム国」（ISIS）やアルカイダのようなテロ組織に圧力をかけ続ける必要性についても確認した。

(2) 重点目標

自身の指名が承認された場合の重点目標については、歴代の国防長官が取り組んできた以下

* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2019年9月9日である。

¹ “Nominations,” Hearing of the Committee on Armed Services, Senate, 116th Congress 1st Session, July 16, 2019. <https://www.armed-services.senate.gov/hearings/19-07-16-nomination_-_esper>

² “Roll Call Vote 116th Congress, 1st Session, Vote Number 220,” United States Senate, July 23, 2019. <https://www.senate.gov/legislative/LIS/roll_call_lists/roll_call_vote_cfm.cfm?congress=116&session=1&vote=00220>

³ マティス氏が退任した後は、パトリック・シャナハン（Patrick Shanahan）氏やエスパー氏が国防長官代行を務めていた（前者は2019年1月から6月まで、後者は2019年6月から7月まで）。

⁴ 米国の国防省が作成する戦略文書であり、1997年から作成されてきた「四年毎の国防見直し（QDR）」の後継に当たるものとされる。公開された要旨は以下から閲覧できる。U.S. Department of Defense, “Summary of the 2018 National Defense Strategy of the United States: Sharpening the American Military’s Competitive Edge,” January 19, 2018. <<https://dod.defense.gov/Portals/1/Documents/pubs/2018-National-Defense-Strategy-Summary.pdf>>

⁵ 指向性エネルギー兵器（directed energy weapon）とは、砲弾やミサイルなどの飛翔体を用いることなく、意図した目標物に指向性エネルギー（レーザーなど）を直に照射することで、目標物を破壊したり、機能を停止させたりする兵器を指す。2019年現在は研究開発段階であるが、米国を始め、各国で研究が進められているとされる。

の3点の継続に努めるとした。

第一の目標としては、米軍の近代化と即応性の向上を挙げた。米国の目標は戦争を抑止することであり、そのためには、全ての分野で他を寄せつけない、強力かつ近代的で即応性を備えた軍隊が、必要不可欠になるとした。

第二の目標としては、同盟の強化と、新たなパートナー国の獲得を挙げた。米国とともに闘う意思・能力を備える国々との強力なネットワークこそが、米国の優位を支えるものであると確認した上で、安全保障分野における「より公平な貢献」を同盟国及びパートナー国に引き続き求めていく方針も示した。

第三の目標としては、国防省の改革を挙げた。財政上の問題があり、かつ、米軍への要求が多様化する中で、資源を投入すべき優先事項を明確にする重要性を指摘した。

その他、エスパー氏は、「個人的な優先事項」として、米軍兵士の生活環境に配慮する重要性も強調した。具体的には、米軍兵士の住環境、育児環境、配偶者の雇用の問題を挙げ、こうした問題が米軍の即応性にも影響を与えることを指摘した。

3 公聴会における質疑

ティム・ケイン (Tim Kaine) 上院議員 (民主党、バージニア州) は、今日の中国があらゆる分野で米国の競争相手 (full-spectrum competitor) となっていることや、欧州各国との同盟に比べて、アジア各国との同盟が組織化されていないことを指摘した上で、エスパー氏に見解を求めた。これに対して、エスパー氏は、アジア各国との同盟が原則として二国間のものであることを確認し (日本、韓国、オーストラリアに言及)、こうした同盟を拡大させることが理想であるとする一方、第二次世界大戦や戦前の問題に端を発する「歴史に根ざした敵対意識 (historical animosities)」が拡大を困難にしていると指摘した。

ダグ・ジョーンズ (Doug Jones) 上院議員 (民主党、アラバマ州) は、同盟の重要性を確認した上で、中国やロシアが同盟国を脅かしたり、同盟を分断させようとしていたりしていることへの懸念を表明した。加えて、トランプ大統領自身の行いが、同盟を弱体化させているとの見方も示し、エスパー氏に見解を求めた。これに対して、エスパー氏は、トランプ政権下の米国が、北大西洋条約機構 (NATO) との間で協力を強化している分野があることなどを紹介した上で、同盟が前向きな状態にあるとの見方を強調した。

マーサ・マクスアリー (Martha McSally) 上院議員 (共和党、アリゾナ州) は、中国が南シナ海で対艦弾道ミサイル発射実験 (2019年7月上旬) を行ったことについて質問した。これに対して、エスパー氏は、こうした中国の振る舞いが、航行の自由の原則や、この海域の商業活動に悪影響を及ぼすものであると指摘し、中国の姿勢を正す戦略が必要になるとの見方を示した。現在の具体的な取組としては、米国がこの海域で行っている航行の自由作戦 (FONOPs) を挙げ、同盟国がこの作戦に参加する重要性も指摘した⁶。

⁶ その他、この指名承認公聴会では、2020年大統領選挙に出馬しているエリザベス・ウォーレン (Elizabeth Warren) 上院議員 (民主党、マサチューセッツ州) が、エスパー氏の防衛産業とのつながりなどを厳しく追及し、注目を集めた。ウォーレン議員は、エスパー氏の指名承認に関する議会投票でも反対票を投じた。Lara Seligman, "Warren Hammers Trump's Pentagon Nominee: Despite Her Own Industry Ties," *Foreign Policy*, July 16, 2019. <<https://foreignpolicy.com/2019/07/16/warren-hammers-trumps-pentagon-nominee-despite-her-own-industry-ties/>>